

ツたが、此年枝の俗悪な駄音曲、唯々出ッ齒の處が喧嘩に強さうで宜しかヤレ〜。

二百八十四 喜多村緑郎

河合の姉さんなる可し、姉さん丈けに理窟に過ぎ
て淋しく、左れど充分に芝居氣の有るは物凄し、
また餘り御研究が過ぎると御骨折の表情がてこへ
んになることあり、御注意なされや。

二百八十五 中村雁治郎

空美的大甘の表情言はれぬ味あり、面白さに過ぎ

るナドの評はあれど、そこが所謂劇美なり、何ん
だつて當時東京には及ぶ人無し。

二百八十六 三遊亭遊學

圓遊一座の間のくさびには相當な瓢輕男、併しひ
とり劍術は些おどろく。

二百八十七 柴田南玉

眞面目な讀み口丈けえぐる妙味が無いは人氣を呼
ばず、併し銘傳の南部阪などは大感服。

二百八十八 三遊亭圓兵衛

詰りこんなのが罪が無いと云ふのかネ、イヤさうだ俗悪で罪が無いのだ、百面相は陳腐く。

二百八十九 市川筵女

下ぶくれの無理な呼吸の無い頃合の女形、東京に居附て、宜イ亭主取當て一生懸命に苦勞したらキツと大所の御内實となるべき人、女形品切の時節こそ君の爲めに嬉こばざるを得無い、さアく奮發したく。

二百九十 市川左傳次

單に左團次一派の興行と來ると、大いに吐くね氣焰を、併し随分キビくと旨味の無い役者だ。

二百九十一 柳亭燕三

上方調はぢれツたけれど話口どこか好い味あり、殊に熱心なりまた多少文字も有るかして、歌俳句などならべても木に鼻で無く、中々やりをるワイと云ふべし、眞打になる見込儘かなり。

二百九十二 猫遊軒新伯知

小伯知の様に師匠を張らず、高座に愛嬌もあり、
際物師として高慢氣の無きは先づとるべし。

二百九十三 市川鯉喜之助

達者に臭いは附物なり、殊に女優として是非も無
し、何がさて其調法なこと、器用なこと、三崎町
の舞臺廻し。

二百九十四 富本半平

さしみの皿へはこり避けの紙を掛る様な太鼓技に

二百九十五 千歳米坡

艶ッボイ婆々ア天下の女傑、兎角野心を起しては

非らず、靜かに粹な取廻し、金子邊りで通人の小
宴ときてはなくてかなわぬ人、小造りで猫脊故
踊りは結構と云はれねど、其老味で意氣な咽喉何
んともたまらず、得意の故升若の聲色不思議な程
旨し、露入逝き芝喜太夫も去る、吉原太鼓も大い
に淋しみを感ぜさせる時、まだく此人が居て心
強し。

打破はされる様だが、まア〜人間と云ふ奴は熱
を吹いて居られる内が結構さ。

五

二百九十六 三遊亭小圓太

素話しの影の薄いなどは心細し、斯うなるとヨイ
シヨツ氣の有る方が元氣見えて宜し、さりとして今
更御始めは御無用、夫れこそ死んだむじなへ魔が
さした如し。

二百九十七 中村又藏

昔は柳盛座の安敵、夫れから石黒の丸太乗りに御

手傳ひなどいろ〜有つて、當時は又五郎の番頭
さん、立師としても一とかどの人。

二百九十八 若柳燕嬢

第一俳優としてスマイルが悪し、又白のどこ迄も
女演説調となるは所謂イケ好か無きもの、殊に三
崎町で文士物でも出す時は氣の故かも知れねど、
こう云ふ物はわたしの畑だよと云ふ顔付見えて憎
くらし、何は兎もあれ女優學校の創立者、若し成
功せば銅像にでもされることなるべし、宜ろしく

一五

米坂なども御仲間へ入れては如何、ナニ規則に曰く、嘗て醜業に従事せし者はとらずと有る、へーイへーイ。

二五

二百九十九 文の家かしく

安直な時節柄かな楓枝が昇進しての眞打株、即ち改名の文の家かしく、演ることは別段洗張りもせず染め直しもせず、懐中都々一のシヤツクリ都々一と例に依つて例の如し、夫れからア一イチヤサのイチヤサと相變らぬがお目出度候かしく。

三百 春風亭朝枝

ガナヤ〜喋舌つて、ガル〜踊つて、御客の腹をいそがしく撚らせる處、儘かに鹿界一代の名物親仁、此奴天下第一品のおットボクたる折紙を附けてやるべし。

藝壇三百人評終

此稿出來上るの時、落研家に入舟米蔵、三遊亭市馬、朝庭坊むらく、俳優に角藤定憲、死せりと聞く、此四國俳に對して予はまことにホロリとせり、怕い言いふたは辭し給へ、嗚呼 南無阿彌陀佛、

讀んで嘆

明治四十年二月五日印刷
同 四十年二月廿日發行

三百人評
定價金廿八錢

不許複製

著者 森 曉 紅

東京市神田區表神保町一番地

發行兼 印刷者 小林 新 造

東京市日本橋區上橫町十番地

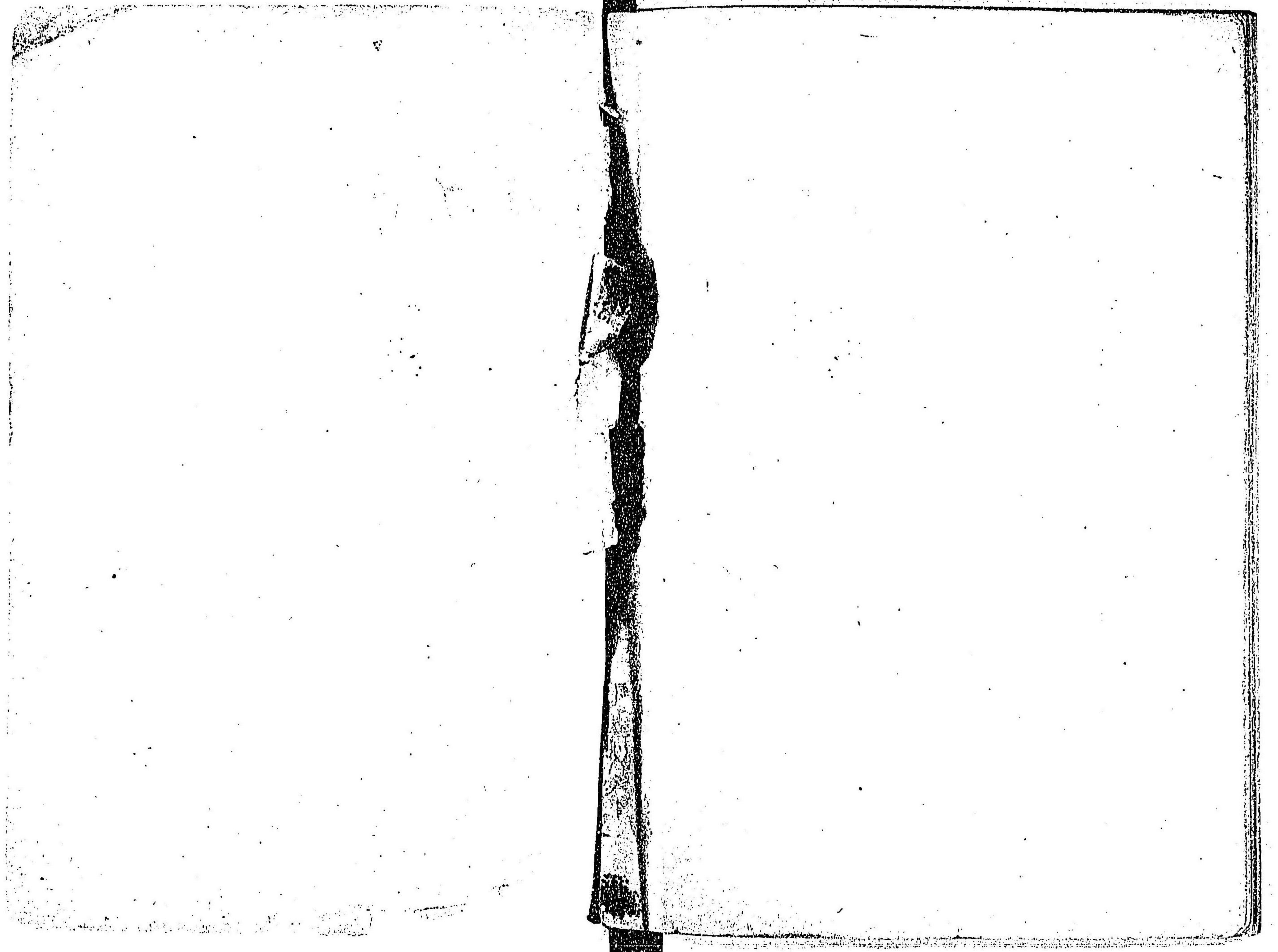
發賣所 如山 堂

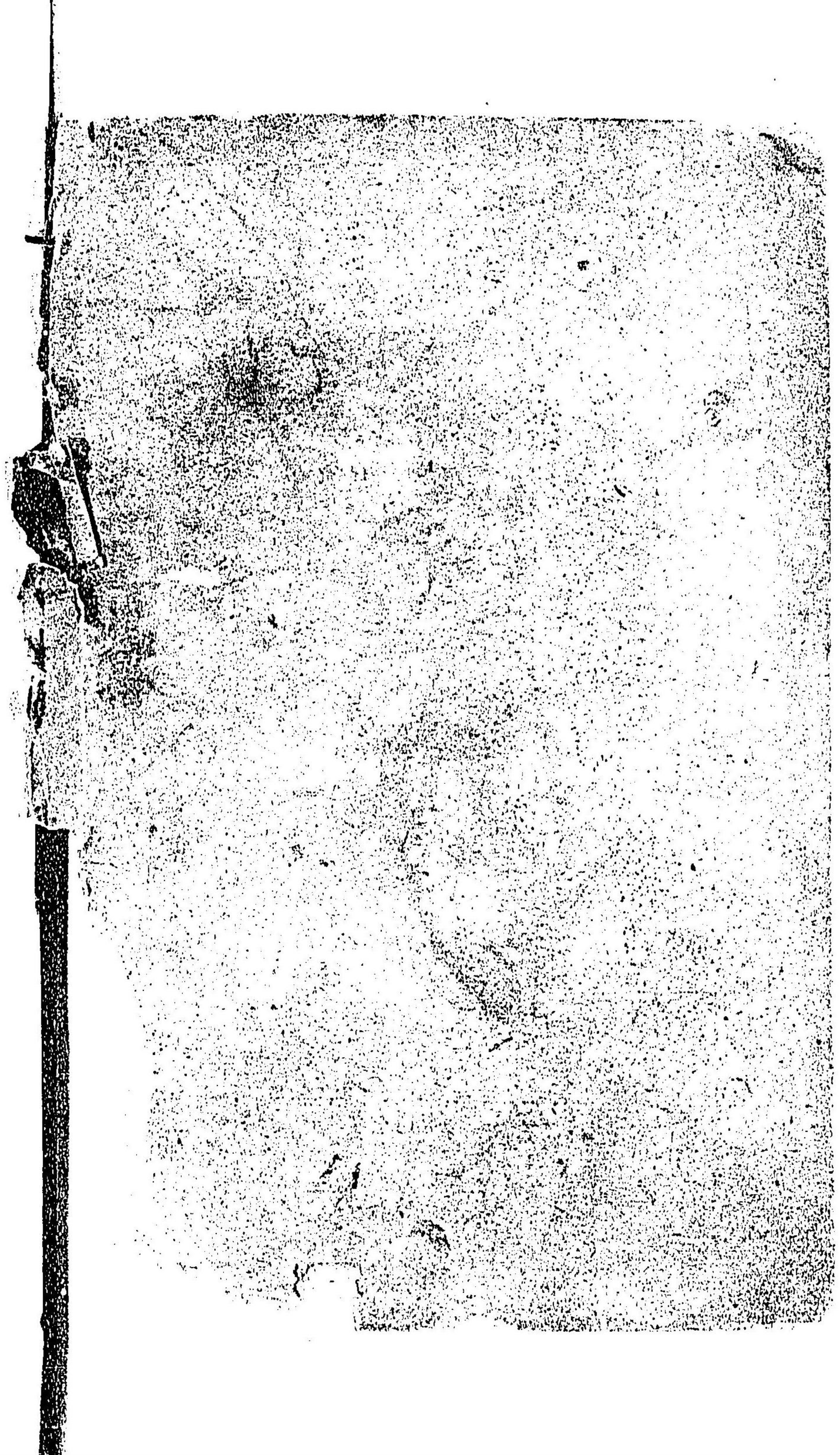
東京市下谷區中根岸七十五番地

發賣所 嵩 山 房

廣一前川善兵衛

大杉本書店





074811-000-4

特63-328

芸壇三百人評

森 曉紅/著

M40

CEK-0147



欠

MISSING